

## 第2回役員会

# 兵庫県で開催。奈良大会に向けた最終審議

平成20年度の全史料協第2回役員会は、去る9月10日に、兵庫県庁、県公館に隣接したパレス神戸で開催された。出席者は、村田会長以下役員18名(欠席6名)、オブザーバー1名、随行者9名の合計28名であった。以下、随行者として見た会議の様相を報告したい。

小川副会長の開会宣言とともに、オブザーバーの佐々木和子氏が紹介された。両名は7月の第16回ICA世界会議クアラルンプール大会に参加したメンバーである。順番は前後するが、総務委員会からその復命報告があった。

続く会長からの挨拶で、5月12日の上川公文書管理担当大臣への要望書提出、8月13日の有識者会議への意見書提出が報告された。これらは全史料協のホームページでも紹介されているので、会員諸賢には是非ご覧いただきたい。さらに、宮城県公文書館から平成20年度末をもって退会する旨の申し入れがあったこと、「個別具体化計画(案)」に関して福井

県のブロック区分を変更する必要があることが述べられた。前者については、都道府県機関会員の退会という重大な事態であり、会長は「動揺が広がらないよう望みたい。」と述べられたが、筆者も同感である。

議事に移り、異動により新役員に就任した東京都公文書館・卯月理事が紹介された。引き続き協議では、編集・出版委員会から会報無償頒布の提案があった。それに対し、会報は会費に対するアウトプットであるから会員外への無償配布はいかがかという異論、過去の印刷部数や現残部についての質問、処分も視野に入れてはといった意見があった。同委員会事務局から、売上げが非常に少ない一方で販売手続きが煩雑で、経費が嵩む等の実態が説明され、提案は了承された。

次に、大会企画委員会より第34回全国(奈良)大会開催要領についての説明があり、関連して会長事務局から総会次第が提案された。筆者は、「組織・業務改善計画(案)」決議を迎

えた昨年度の茨城大会で、スケジュールの遅れが出ぬよう、舞台裏から祈っていたことを思い出した。今年度も引き続き重大案件がある。参加者には十分な準備をもって総会に臨んでいただき、有意義かつスムーズな議事となることを願いたい。



いよいよ「個別具体化計画(案)」の審議に移る。総務委員会では、第1回役員会での審議を経て修正された案(7月8日案)をホームページ等を通じ会員に周知し、意見を求めていた。今回はそれを受けて、さらに修正を加えた案が提出された。主な変更点は次のとおりである。①調査・研究委員会の3ワーキンググループ(WG)についての記述は、「ありうる態勢」の一例示とし、新委員会が自ら検討して、適切な態勢を選択することとしたこと、②副会長(事務局)が、組織運営上の問題で会長を補佐すること、③機関会員の東西ブロック分けで、福井県を西ブロックに移し、その結果、平成23・24年度の副会長(東)から福井県を外したことである。

総務委員長が、資料を元に会員意見とそれに対するコメント・対応案を一つ一つ読み上げた。一とおり説明が終わると、全史料協事務を行うための賃金職員雇用経費の増額を求める意見が出された。同委員長は「個別具体化計画(案)」は実際に予算案を拘束するものではないと説明されたが、総会で混乱することがないように「収支予想の読み方」については、十分説明して欲しいとの要望も出された。昨年度の第3回役員会に提案されて以来、審議はこれで3度目である。これまで数度の修

正を経ており、今回が最後の審議となるためか、筆者の事前予想と違って、質問・意見があまり出なかったという印象が残った。

続いて全史料協の組織変更に対応した会則改正と委員会設置要綱改正が審議された。監事は1名とすること、「開催県」ではなく「開催地」の名称を使う点が修正されたが、概ね提案どおり了承された。

協議の最後は、第18期(平成21・22年度)役員選出についてであった。新役員案は、現在調整中であるが、総会までに固め、そこで提案される。このうち、個人会員から参画する役員は、ホームページ等を通じ7月3日から25日まで、自薦・他薦を含めて公募し、そこから選考したものであると、会長から別な席で伺った。また、しばらく空席であった参与職が復活する予定であることも知った。組織改編の過渡期であることを考えれば、必要な人事であろうと筆者は思う。会長には、理事を含め、委員会事務局の委嘱について、まだまだご苦労が続くと思うが、総会までに調整がまとまることを祈りたい。

協議終了後、次の事項が報告された。①平成20年度第1回役員会会議報告、②会員の現況及び平成20年度会費納入状況報告、③委員会報告、④地域担当理事報告で、この中では個人会員・準会員の会費納入率の低さが、運営面から大いに気になるところであった。

次回役員会は、2月に群馬県立文書館で開催することを確認し、閉会となった。その後、兵庫県公館を、中村理事をはじめ同館職員の方々にご案内いただいた。壮麗な迎賓館部分は現在でも用いられており、また県政資料館部分では、展示から兵庫県の歴史を学んだが、初代知事が伊藤博文と知り驚いた。さらに書庫見学の機会も得られ、絶好の研修の場となった。関係諸氏に感謝申し上げたい。

(9/25記) [茨城県立歴史館 富田 任]